



埼玉の社叢

白髭神社ふるさとの森

かみはら
上原二一四

白髭神社の鎮座する深谷市上原は、荒川北岸の水田が広がる農村地帯である。

しかし、このあたりの関東ローム層の下は、櫛挽台地と呼ばれる寄居付近で山地から平地に流れ出た荒川が大量に土砂を堆積させた荒川扇状地にあたることから、本来は水はけが良く農地にあまり向かない土地であった。そのためこの台地上にあたる深谷市南部・岡部町・川本町北部地域は、太平洋戦争以前までは「櫛挽ヶ原」と呼ばれた雑木林が広がっていた。

作物も陸稲わかほや桑が中心の畑作で、高燥な地質のために水不足に悩まされることが多く、農業用水には「井戸のほう」と呼ばれる湧き水や天水を溜める窪地を掘って利用するしかなく、しばしば雨乞いも行われたという。

戦後、櫛挽台地は農地開拓と灌漑が整備されたことから一気に風景が一変し、かつての雑木林が水田や畑となった。

ふるさとの森としての指定対象は、密生したスギとヒノキの混交林である白髭神社叢部分一九〇アールだけであるが、両側に隣接する広い私有林と一体化した巨大なドーム状の森を形成しており、川本町北部でも唯一の森であることから平成三年三月に県の指定を受け、かつての櫛挽ヶ原の面影をとどめている。